

第15回ながしま造形美術展開幕

町民たちの技術が光る造形展

10月19日、太陽の里ピクニック広場（鷹巣）で、第15回ながしま造形美術展が開幕しました。

昭和60年に旧東町の町政施行30年を祝う行事の一つとして「あづま造形展」が開催され、今回で15回目となりました。

19日の開会式では、開会宣言にあわせて、出水中央高等学校の吹奏楽部による演奏が花を添えました。前畑詔爾実行委員長は「製作者のご尽力に感謝します」と、関係者に謝辞を述べ、川添健町長は「造形展が地域の絆を深めている。27年度に鹿児島県で開催される国民文化祭へつながる造形展になってほしい」とあいさつしました。

町内の各集落や学校などのほか、今回は特別出展として、三島村や十島村に伝わる仮面神もお目見えし、118点もの作品が出品されました。

出水市から来場した緒方準一さんは「ずっと造形展に行きたいと思っていた。造形物は細部にまで手が込んでいて感心した。長島はイベントなど活発ですばらしい」と話しました。

次項から、今回の入賞作品を紹介します。



↑多くの来場者でにぎわう商工会員らの出店



↑開会式でテープカットする川添健町長ら